

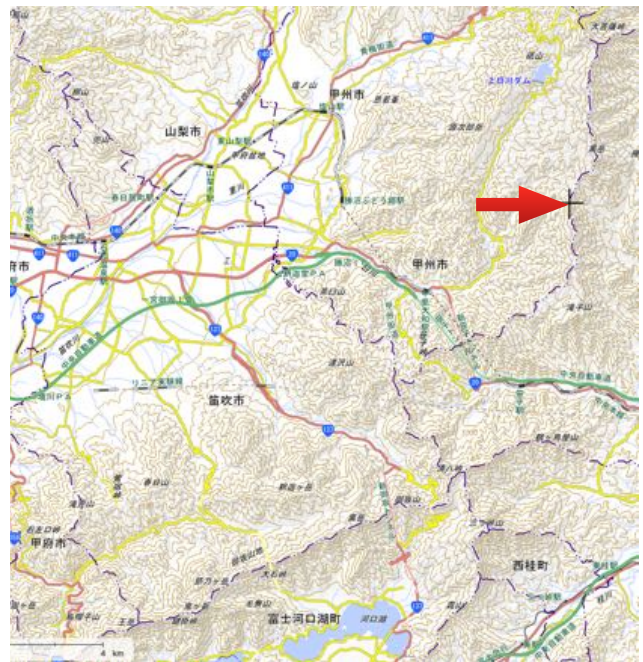
大蔵高丸植生防護柵見学 2014年9月8日
 案内人 環境省自然公園指導員 半場良一氏夫妻
 参加者 横山 志賀 山本 勝又

大蔵高丸は甲府盆地の東側に位置し、小説で有名な大菩薩峠、500円札に使われた富士山の写真が撮影された雁ヶ腹摺山などに近い。7~8世紀に多くの百済人が甲斐に移り住んだことでこの辺りは朝鮮語の「山」を指す「丸」がついた山の名が多いといわれる。

甲州市側の標高1,650mの湯ノ沢峠まで車道があり、そこから数分歩くと草原に出る。尾根筋は草原と森が混在し、草原の部分はかつては茅刈場として利用されていたようだ。

歩道にはロープが張られ、草原が保護されている。格子のドアを開けて柵内に入ると花の数が違うのが分かる。しかし、ここは柵が設置されてまだ間がないという。あちらこちらに富士山では希少種のコウリンカが咲き残っていた。

一端、柵外に出て初期に試験的に設置された小さな柵に向かう。柵の内側は周辺部とは全く異なる見事なお花畑になっていた。かつてはこの草原全てにこのようなお花畑が広がっていたそうである。柵の効果と被食被害の実態を見て複雑な思いであった。



国土地理院地図使用



柵の入り口に設置されたプレート



写真上=ロープが張られた歩道
 写真左=コウリンカ
 写真右=初期の柵内は植物相が豊かなお花畑だった





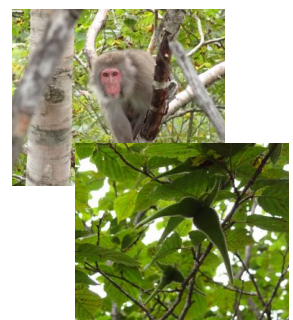
動物の通路として柵を設置していない部分と初期の柵 (新しい柵が写真の右と左に設置されている)



大蔵高丸



大蔵高丸の山頂



ニホンザルと餌のツノハシバミ

大蔵高丸のさらに奥には甲州市が新たな防護柵を設置する草原が広がっている。半場氏が試験的に設置した防護柵の効果が地元行政を動かし、植生保護の流れが確かなものになった。

見学の最後に柵の一つを分担して点検した。上部のロープが通る部分の網が擦り切れた箇所、動物による大穴などが複数見られ、それらをインシュロックで補修した。(写真=下)

破損した網は金属ワイヤー入りだが、私たちが須山口に設置したものより細く、耐久性は劣るようである。半場氏によれば月に2回程度、点検補修が必要とのことであった。今年2月の大雪では、積雪や風によるネットおよび支柱の破損もあった旨の説明を受けた。防護柵素材の選定や耐久性について参考になった。新たに設置されるものは金属製ということなので耐久性の心配はない。



ロープとの接点が切れた部分



動物による大穴



インシュロックで修理